



出演者2人にとっても 待望の企画が遂に実現

リサイタル・シリーズ「VS」の第2弾はジャンルも世代も異なる、しかしお互いに確固たる音楽を築き上げたもの同士の「対戦」だ！

実は2人も名門・麻布学園（麻布中学校・高等学校）の出身。鈴木優人の世代が中核となって結成した“麻布学園OBオーケストラ”が、麻布学園創立120周年記念演奏会をおこなった際、鈴木よりも40年前に同校を卒業した山下洋輔にダメ元で出演依頼したところ、山下は快諾。それから毎年のように『ラブソフィー・イン・ブルー』を指揮とピアノで共演している。

そして2017年の仙台クラシックフェスティバル（せんくら）に出演していた両者は、10月1日に2台ピアノでも初共演。他の出演者もいるなかで、およそ15分程度の演奏だったというが、これが鈴木にとっては大きな衝撃だったという。鈴木「この時の共演は、私にとってのいわば“ライフ・チェンジング・イベント”でした。指揮者として共演する時は洋輔さんの魅力を引き出して、オーケストラと一緒に歩むための共同作業をするという感じなのですが、一対一でピアノを弾く場合は全然違ってました。洋輔さんは“やっばらん！”って感じで球を投げてくだ

さるんで、これは逃げちゃられないなと（笑）。その結果、めちゃくちゃ引き出してくださって、本当に衝撃でした。人生変わりました！」

古楽の名門一家出身であるためオルガンやチェンバロのイメージが強いかもしれないが、留学先のオランダでもハーグ王立音楽院の即興演奏科を、日本人として初めて栄誉賞付きで修了した紛れもない即興演奏の名手であることは、意外と知られていないかもしれない。普段は注目されることの少ない鈴木が秘めた即興の才能を、山下は見事に引き出してしまったというわけだ。山下「クラシックの世界でも、モーツァルトやベートーヴェンにしろ、作曲家はみんな即興演奏の名手だったわけですよね。当時は即興による対戦（VS）があったり、王様から与えられたテーマでバッハが即興演奏を披露したのも有名です。それを楽譜としても遺せるのが僕と違うわけですけど（笑）」

鈴木「バロックでの通奏低音も即興って言われ

©Akihiko Sonoda



山下

Yamashita Yosuke

洋輔

©Marco Borggreve



鈴木

Suzuki Masato

優人



3月4日(金) 19:00開演

コンサートホール 詳細はP11へ

出演:山下洋輔 鈴木優人(ピアノ)

曲目:コズマ/枯葉*

モーツァルト/ロンド イ短調 KV511**

ガーシュウィン/3つの前奏曲

J.S.バッハ/平均律クラヴィーア曲集より ほか

*山下ソロ **鈴木ソロ

ちゃうんですけど、あれはそういう仕事なんです。でも以前、ブルーノート東京で洋輔さんが代役で（中編成の）アンサンブルに入られて演奏するのを聴いたんですけど、他に主役がいるので、洋輔さんがサポートに回るが多かったんですよ。これはまるで通奏低音のようだなと思ったことがありました。バロックのチェンバロ奏者も、目立つために即興するのではなくて、増強して成立する役割というか。そういう一面が、ジャズの即興にもあると思いますね

両者ともに自分の専門分野に引き寄せて相手のことを理解しているのが面白い。実際にどんな音楽が繰り上げられるのか、そのヒントを山下が語ってくれた。

山下「2台ピアノという（フリージャズの巨匠）セシル・テイラーとも一緒にやりましたが、クラシックのピアニストだとスタニスラフ・ブーニンとの共演が良かったです。彼はジャズ

が好きで、僕の演奏を気に入ってくれて、こいつとならモーツァルトと一緒にできると思ってオフアーしてくれただけど、“いやそれは違うよ、僕がやるのは他の人たちがちゃんと弾いてるものに勝手に入り込んで即興でチャチャをいれることなんだ”って言ったんです（笑）」

プログラムには、2人のデュオだけでなくソロでの演奏も1曲ずつ並ぶ。山下は近年改めてアプローチしているジャズ・スタンダードから『枯葉』を、鈴木は最愛の曲のひとつだというモーツァルトの『ロンド』を披露する。

鈴木『『ロンド』は楽譜通り弾く予定ですが、ルフラン（主題）の間に挿入されるクープレもモーツァルトの即興のように聴かせたいですね。コンサートの最初のうちは、作曲家の書いた譜面をきちんと奉って、演奏が進むにつれてガラガラと崩れていくことになると思います（笑）」

山下「最初から危ないかもしれないよ（笑）」

取材・文：小室敬幸（音楽ライター）

シリーズ第3弾は、塩谷哲 × 大林武司

ジャズ界のみならず多彩な活動で音楽界を走り続ける塩谷哲と、NYを拠点に、MISIAのバンドマスターとしても活躍する若手最注目的大林武司が登場。大林は15年以上前、出身地・広島で聴衆として塩谷の演奏に触れて以来、塩谷に強い憧れと尊敬を持っていたという。今回、“ピアニスト”と“ピアニスト”として、舞台上での初共演が実現。ピアノを通して、対話し、融合し、一瞬一瞬で変化していくパフォーマンスにご期待ください。

「VS」Vol.3

3月25日(金)19:00開演

コンサートホール 詳細はP11へ

*有料ライブ配信あり
(アーカイブ配信なし)



Shionoya Satoru



Ohbayashi Takeshi